

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	財津倫子	職名	講師	学位	修士 (看護学) (広島大学 2005 年)
----	------	----	----	----	------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研究課題
<p>看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめて投稿した。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について再度調査を行い、結果を論文にまとめて投稿する予定である。</p> <p>成人看護学 (急性期) に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。</p>

担当授業科目
<p>救急・クリティカル看護学 (前期：看護学科) 救急・クリティカル看護学演習 (後期：看護学科) 成人・老年看護学演習 (前期：看護学科) 成人急性期看護方法論 (後期：看護学科) 成人急性期看護学実習 (後期：看護学科) 看護総合実習・演習 (前期・後期：看護学科) リハビリテーション看護学 (前期：看護学科) 看護研究の基礎 (前期：看護学科) 健康教育論 (前期：看護学科) 看護学 (後期：栄養学科)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 救急・クリティカル看護学 】3 年生前期</p> <p>1. 「クリティカルケア看護の特性」「対象の理解」「生体侵襲・生体反応」「外傷患者」「熱傷患者の救急処置と検査、その初療時の看護」「呼吸・循環障害に対するアセスメントとケア」「IABP/PCPS 施行中の看護」について、解説する際、パワーポイントで図や写真や動画を用いながら、わかりやすいよう工夫した。</p> <p>2. 重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【 救急・クリティカル看護学演習 】4 年生後期</p> <p>1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。</p> <p>2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。</p>
<p>授業科目名【 成人老年看護過程演習 】3 年生前期</p> <p>< 講義 ></p> <p>1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても解説する。</p>

<看護過程>

1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。
2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

<看護技術：周手術期の看護>

1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎（6人）に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、時には質問も交えながら、自分で考え理解しやすいようにした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。
2. ①深部静脈血栓症の予防として、弾性ストッキング装着の実践。フットポンプの装着。②JVACの仕組みについての解説と実践。①②が学べるブースを作り、時間ごとに移動し全員が実践しながら学べるよう工夫した。

授業科目名【成人急性期看護方法論】2年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。
3. 課題は、そのまま3年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがにつながるよう配慮した。

授業科目名【成人急性期看護学実習】3年生後期～4年生前期

1. 臨床実習では、慣れない環境に置かれている学生のことを考え、まずはどのように動いていくかを説明した。知識の上でわからなければ、どこに（教科書や参考書や事前課題）戻ればいいのかを伝え、自分で考えることが出来るよう導いた。また、質問しやすい雰囲気を作り、グループ間そして教員へもわからないことがあれば質問・確認ができるように、必ず学生に所在を伝えた。
2. 臨床指導者と毎日コンタクトをとり、各学生の目標やゴールを定め、協力して指導を行った。
3. 担当患者さんに対し、毎日実習開始前と終了時に挨拶に伺い、患者さんが気になることや大学側に伝えたいことがあれば、伝えられる機会を持った。また、表情などを観察し学生との関係性も確認していった。
4. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
5. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。

授業科目名【看護総合実習・演習】4年生（通年）

1. 総合演習においては、総合実習前に「12誘導心電図」「気管挿管の介助」「気管挿管時のチューブ固定」「心電図モニター」の装着方法と「輸液ポンプ」の使用法とその看護の演習を実施した。学生の事前学習をもとに、当日は物品準備から学生に実施させ、準備から実践そして後片付けまで体験することで、考えて動きそして学びとなる演習を心がけた。保清の技術演習に関しては、患者そして看護師を必ず体験し、学生同士で気づきを相手に伝えることで、お互いの学びとなるよう支援した。
2. 総合実習においては、看護部との調整のみ教員が行い、その後の病棟との調整は学生に任せた。実習計画書の作成・記録用紙の検討を学生自身で進められるよう支援する。
3. 実習終了後のレポート作成においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、学生自身でレポートを進められるよう支援する。
4. レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催する（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、

質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。
<p>授業科目名【 リハビリテーション看護学 】3年生前期</p> <p>1. 「心臓に障害のある患者のリハビリテーション」「呼吸リハビリテーション」について解説する。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【 看護研究の基礎 】3年生前期</p> <p>1. 科目の担当の教員が講義を行い、それを受けた形でグループワークをおこなった。</p> <p>2. 研究テーマの選定から、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、実践、データ集計、結果の分析、まとめ、発表までをグループワークし、その助言を行った。講義時間内ではまとめきれない内容については、学生と話し合い、時間外に指導を行った。</p>
<p>授業科目名【 健康教育論 】2年生前期</p> <p>1. 保健師・看護師分野に分かれ講義を行った。看護師分野を担当し、講義からパンフレット作成、発表までの実践を行った。</p> <p>2. 2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた。事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え、その項目内容で個性をふまえるとどのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かをグループ間で話し合いながら、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。またパンフレットを作成するだけでなく、指導を受ける側（患者体験）も経験させ、客観的に自己を振り返る機会も設けた。</p>
<p>授業科目名【 看護学 】3年生後期：栄養学科</p> <p>1. 胃がんの手術を受ける患者の看護（胃がんの病態の説明も行う）を講義し、胃がんの事例を提示した。提示した事例をもとに、栄養管理計画書に栄養士としてどのように関わっていくかを整理させ、発表会を開き、質疑応答も行った。看護師と栄養士との協働の在り方などを検討しあう良い機会となった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会 日本運動器学会（日本整形外科 看護研究会より改名） 日本看護科学学会 日本看護学教育学会会員	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る 2005年6月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2015年12月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 看護学科における初 年次教育の取り組み	共	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24, 2020 P11～21	① 初年次セミナーにおける教育プログラムの検討および実践報告 ② 高橋甲枝 目野郁子 新谷恭明 前田由紀子 一期崎直美 笹月桃子 溝部昌子 吉原悦子 財津倫子 中原智美

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
<p><u>3年生ゼミアドバイザー(2019年4月1日～継続中)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 前期及び後期に1回ずつ全メンバーに面接を実施。 保護者懇談会では、1年生の保護者の方々が情報交換できる場を設けた。その後、希望する保護者の方と面談し、質問に答えていった。 各論実習前に低学年模試を行った。その結果を受けて、12月の各論実習期間の中間地点で模試結果（学年全体における）の説明および各個人へ結果を配布した。また、実習グループでグループの在り方を振り返りさせ、今後の課題についても明確にさせた。 休学中の学生に対し、個々の学生と約束した日付にメール送信あるいは電話連絡を行い、近況の確認を行った。メールでの質問に対しては、その都度わかりやすく返答した。 12月の時点で実習点が60点に満たない学生に対して、保護者に対し面談を行った。学生の現状についての説明と、学生に対するサポートについてお願いする機会を設けた（学科長、3年生アドバイザー長も参加） 退学が確定した学生に対し、面談を行う（本人及び保護者来学）。

研究推進委員(2019年4月1日～2020年3月30日)

1. 4月に第1回目の会議が開かれ、年間活動計画について検討。特別講演会・カンファレンス・研修会・ブログ掲載についてどなたに依頼するかを決定し、開催日時についても検討した。
2. 年間計画表の提示を行うことにより、今後研究を始めようとしている若手研究者は、研究を行う予定が立てやすいのではないかと、前年度の将来計画の振り返りを生かし、2019年度年間研究予定表を作成し、5月の学科会議にて配布した。
3. 研修会、研究カンファレンス、特別講演会の掲示、会場設営、出席者の確認、アンケートの配布と集計をその都度行った。特別講演会前には、日ごろお世話になっている実習施設全てにポスターを郵送し、出席を募った。

教育経費予算配分委員会 (2019年4月1日～継続中)

1. 当該年度予算について
 - 1) 5月に、5月1日現在の学生数によって決定した確定シーリング額を会計課よりメール報告を受ける。
 - 2) 6月末までに2019年度の確定予算を会計課に提出した。
 - 3) 学科内の予算執行は、実習関連以外は可能な限り11月末までに終了するよう8月の学科会で依頼した。
 - 4) 1月の「購入伺い書」提出期限の前に会計課に予算執行状況の概算を確認し、追加購入を検討したが、余剰分はなかった。
2. 翌年度予算について
 - 1) 8月の学科会議で翌年度の予算計上の依頼を行った。
 - 2) 各領域から提出された予算を確認して、暫定シーリング額内に収まるように調整した（調整する際は、前年度と購入物品の相違や金額を確認し、大幅に違いがある場合、予算作成者へ直接確認をおこなった。消耗品については、文具は定価の7割、医療・実験用は定価の9割がけて購入可能であるため、実質金額は、それぞれ $\times 0.7$ 、 $\times 0.9$ で計算しているはずであるが、そのように計算されていないものに関しては、再計算した。また、消費税が0.1となったためその点についても確認した。
 - 3) 2020年度暫定シーリング額におさまるよう、調整・話し合いを行った。
 - 4) 2020年度の暫定シーリング額を10月23日にメールで報告を受けた。
 - 5) 2020年度の暫定シーリング額に調整し、暫定シーリング内におさまった2020年度の予算書を11月1日（金）に会計課へ提出。
3. 委員会の開催について
4月のみの1回であった。

BLS 受講調整 (2019年4月1日～継続中)

1. 受講料は前期の学費へ追加して納入いただくこととしている（郵送にて連絡）。そこで新4年生の誰が受講するのかを3月25日ぐらいまでには会計課へ連絡した。看護コースの受講となるため、会計課へ受講者名簿をメール送信した（コース別分類）。
2. 3月初旬には博多トレーニングセンターの担当者に連絡し、受講日の調整を行った（その前に学科長と調整する）。
3. 実習室の予約及び施設使用願いの提出。
4. 受講者の名簿作成（英語記およびメールアドレスを入れたもの）
5. 教材と案内書が博多トレーニングセンターより郵送されてくるため、午前班、午後班の通達も兼ねて教材を配布。
6. 就職試験と受講日が重なる学生がちらほら報告に来るため、定期的に博多トレーニングセンターへ欠席の連絡を入れる。学生には、直接トレーニングセンターで受講できる手続きについて説明した。
7. 受講日当日は、8時30分からの開始となるが、当日にBLS人形等の搬入がため、7時から搬入が開始される。出欠確認はインストラクターの方が実施くださった。欠席者・遅刻者へは教員が連絡しなければならぬが、2019年度は欠席者・遅刻者はなかった。
8. 受講中の写真撮影を許可いただき、写真撮影を行った後、ブログへUPする準備を整えた。
9. 終了時間に実習室に下り、片づけを手伝い、実習室施錠し、完了した。